

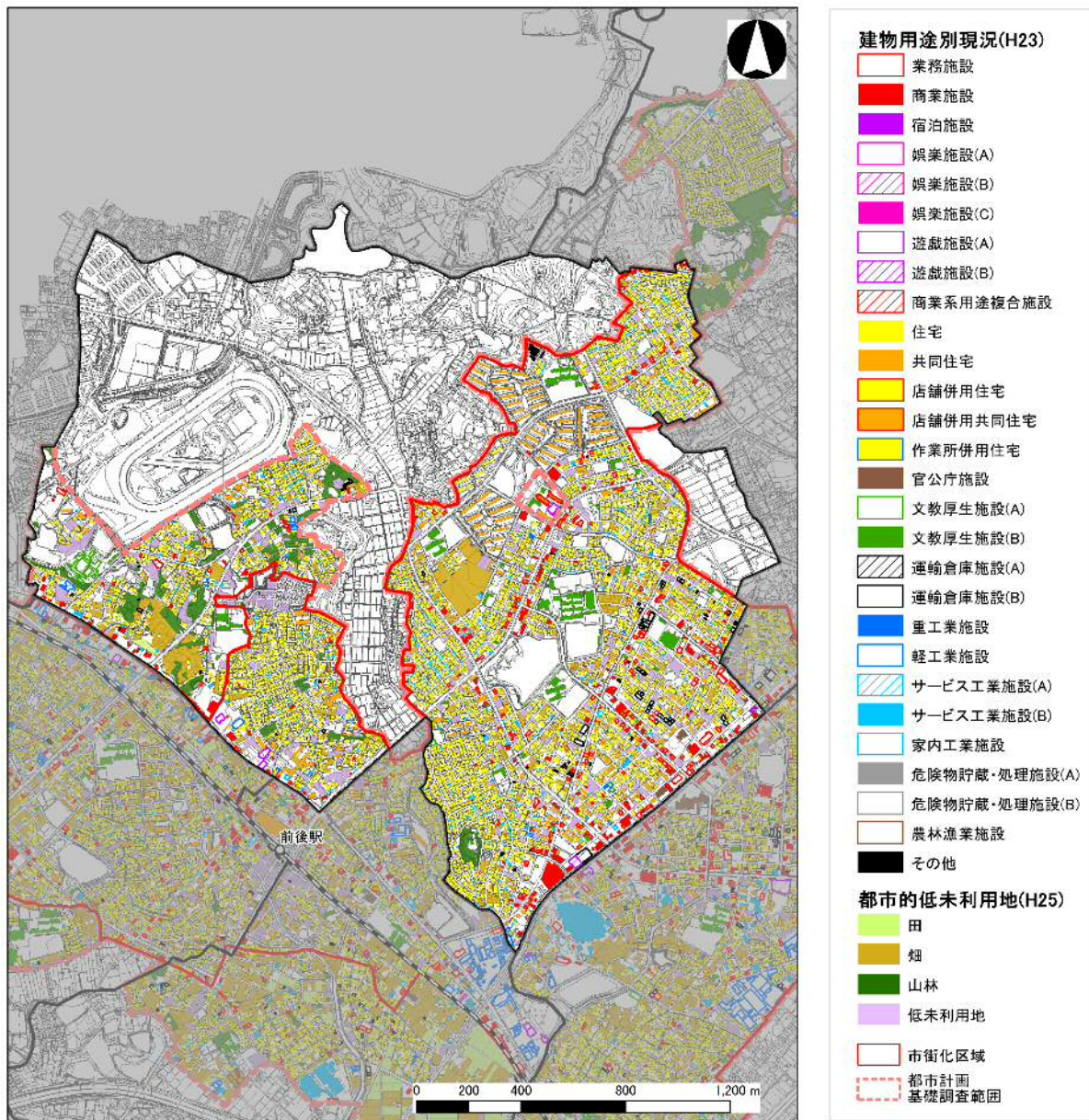
双峰・大宮・唐竹・三崎小学校区

1 地域の概況

(1) 土地利用

- 前後駅周辺や三崎町では低未利用地がみられます。
- 工業地は少なく、住宅地が主体となっています。
- 三崎町や(都)国道1号東線、(都)瀬戸大府東海線及び(都)桜ヶ丘沓掛線の沿道に商業施設が多く立地しています。

図 土地利用現況

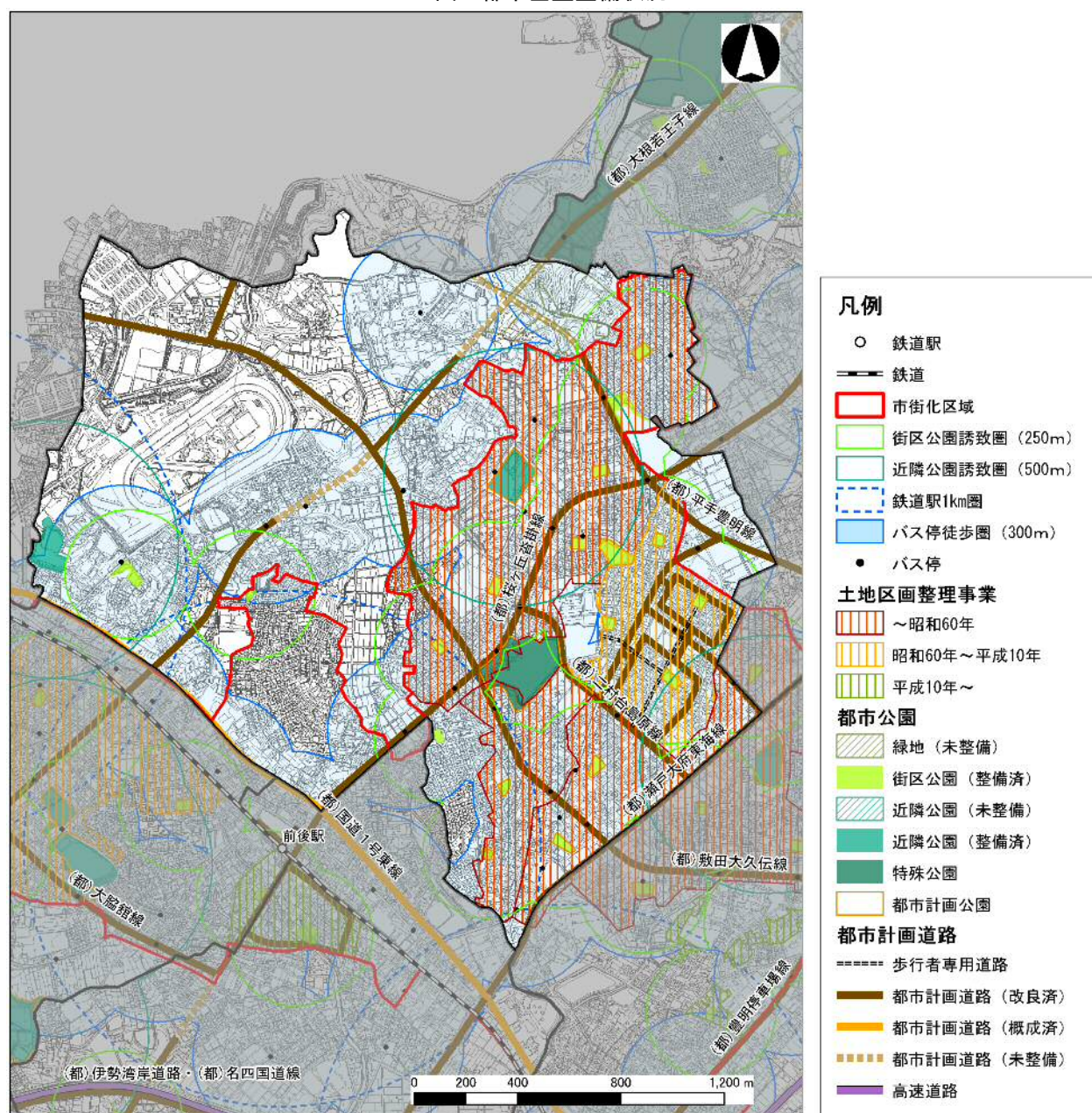


資料：平成23、25年度都市計画基礎調査

(2) 都市基盤

- 宅地となっている地区はほぼバスの利用圏（半径 300m）に含まれているものの、前後町仙人塚などはバスの利用圏に含まれていません。しかし、前後駅から約 1km 圏となっているため、特に公共交通の利便性が低い地域とは考えられません。
- 本地域の東部では、土地区画整理事業が行われていますが、完了年が昭和 60 年以前となっており、都市基盤施設の老朽化などが懸念されます。
- 土地区画整理事業が行われた範囲では、都市公園が整備されており、身近な公園が十分整備されていますが、前後駅周辺をはじめとしたその他の地域では、公園が整備されていません。
- 都市計画道路では、(都)大根若王子線と(都)平手豊明線の一部区間が未整備となっています。

図 都市基盤整備状況



資料：豊明市

(3)人口等

- 平成 18 年から平成 28 年にかけて、杓掛町、二村台で人口減少がみられ、地域全体でも人口は減少しています。
- 高齢者割合は西川町、前後町で市平均 24.8%（平成 28 年住民基本台帳）を下回っており、地域全体では市平均と同率となっています。

表 地域内の人口と高齢化の状況

町名	H28人口	H18人口	人口増減数	H28高齢者	高齢者割合
間米町	2,288	2,042	246	588	25.7%
杓掛町	196	264	-68	64	32.7%
三崎町	4,752	4,612	140	1,214	25.5%
西川町	3,074	2,971	103	505	16.4%
前後町	3,671	3,657	14	850	23.2%
二村台	8,835	9,446	-611	2,436	27.6%
合計	22,816	22,992	-176	5,657	24.8%

※各町の人口等は本地域分を計上

資料：住民基本台帳

図 H18～H28 人口増減

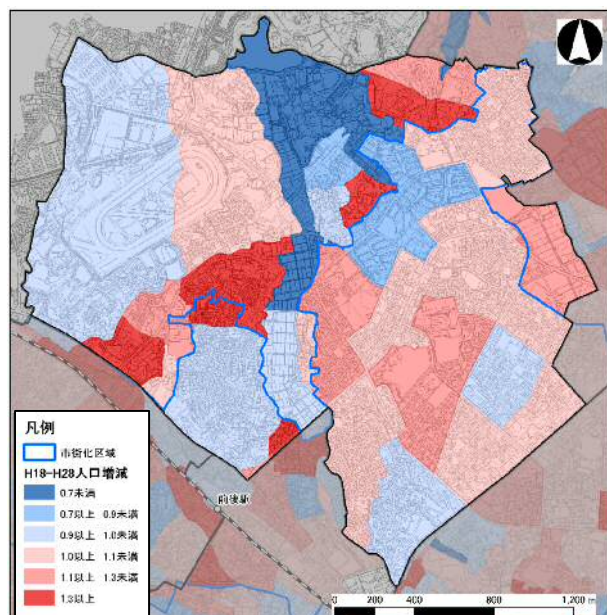
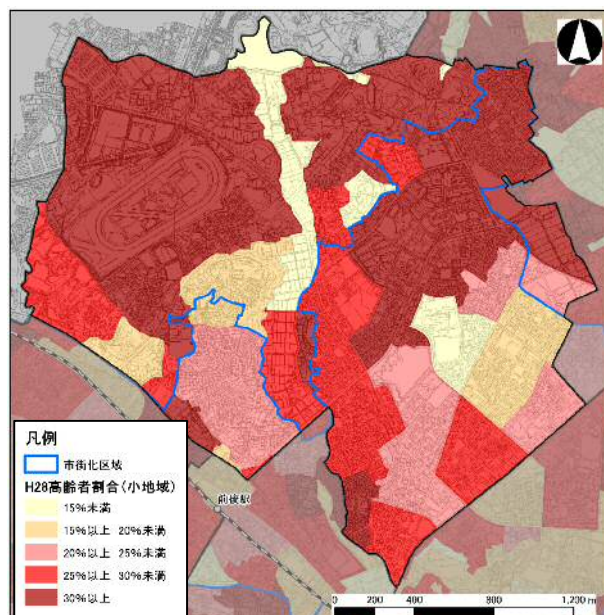


図 H28 高齢者割合



資料：住民基本台帳

2 地域の魅力と問題点

地域別ワークショップで出された意見をもとに、本地域におけるまちづくり上の魅力と問題点を整理します。

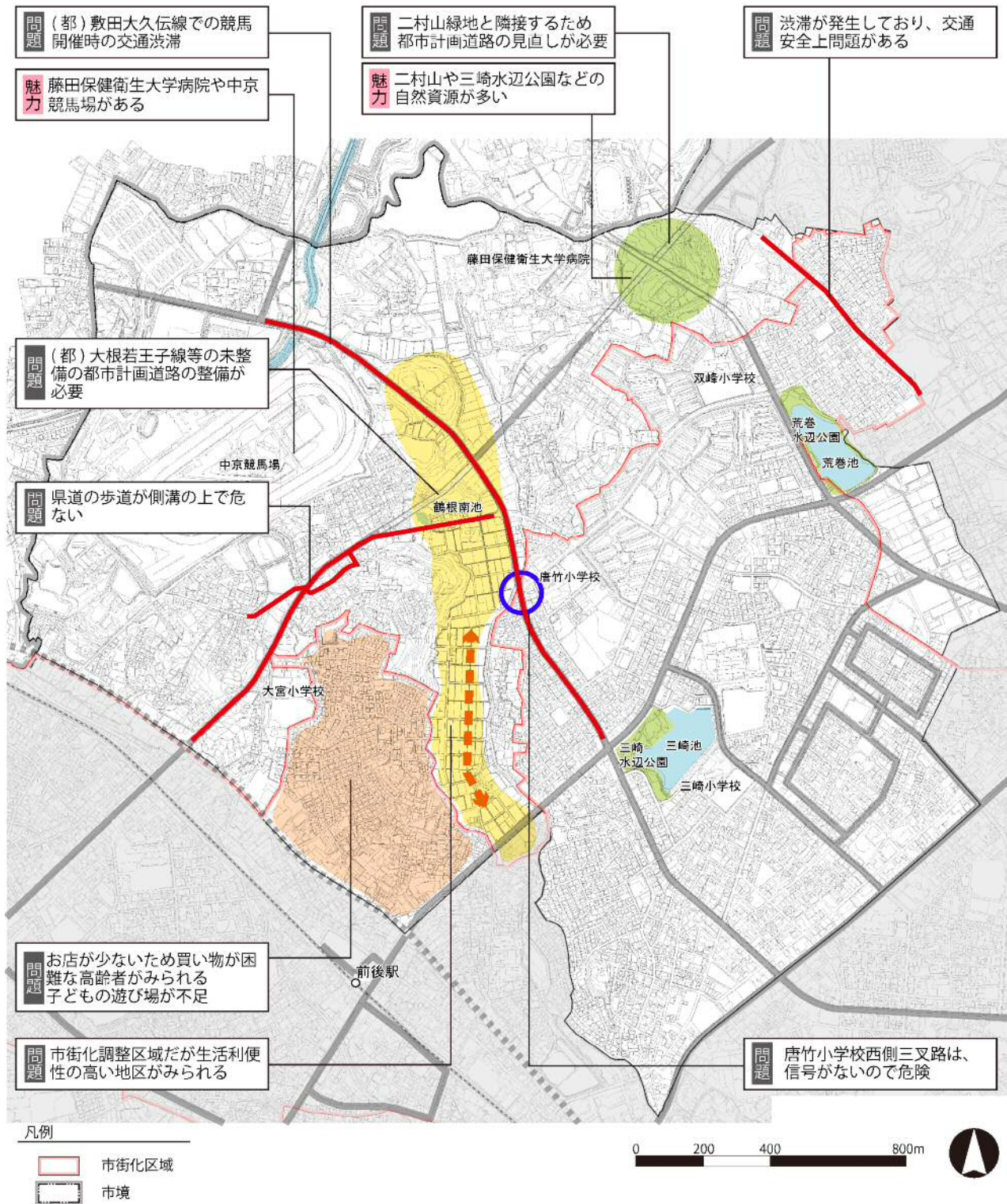
(1)地域の魅力

- 公共施設や商業施設、医療施設が身近にそろっており、生活利便性が高い地域となっています。また、鉄道駅に近いため、公共交通の利便性が高くなっています。
- 藤田保健衛生大学病院や中京競馬場があり、来訪者が多くなっています。
- 二村山や大狭間湿地、三崎水辺公園や荒巻水辺公園などの自然資源が多くあります。

(2)地域の問題点

- 市街化調整区域であっても、駅に近く生活利便性の高い地区がみられることから、地区の活力維持のため、土地活用を検討することが必要です。
- 幹線道路などで渋滞が発生することにより、周辺の生活道路へ通過交通が多くなっていることや、歩道の整備が不十分な区間がみられることから、特に通学路における歩行者の安全確保が必要です。
- (都) 大根若王子線などの未整備の都市計画道路がみられるため、整備の推進が必要です。
- 二村台7丁目皿池交差点や唐竹小学校西側三叉路などにおいて、歩行者の交通安全対策が必要です。
- 徳重駅方面への移動の需要が多くあることから、公共交通のルートの検討が必要です。
- 震災時に避難できる身近な場所の確保のため、地域での防災対策の推進が必要です。
- 既成市街地では、商業施設が少なく地形に高低差があるため、高齢者の買い物が困難となっている状況がみられることから、対策の検討が必要です。また、子どもの遊び場が不足していることから、公園などの整備により生活しやすい住宅地づくりが必要です。

図 主な地域の魅力や問題点



3 全体構想における位置づけ

(1) 将来都市構造

- 健康医療福祉拠点に位置づけられている藤田保健衛生大学病院周辺があり、当該拠点では、地域拠点として日常的な生活サービス施設等の立地を誘導し、地域住民の暮らしを支える拠点の形成を図るとともに、産学官連携による先端技術を活かした福祉・介護機能や健康増進機能等の導入を検討し、次世代型の健康まちづくりを先導的に実践する拠点の形成を図ります。

(2) 主な都市づくりの方針

- 沓掛地区（二村台）をはじめ、土地区画整理事業により都市基盤施設が整備され、低層戸建住宅が多く立地する住宅地区においては、引き続き、現在の土地利用を維持し良好な居住環境を保全するとともに、日常生活に必要な施設が立地する住宅地の形成を図ります。
- 中高層住宅が主体の豊明団地においては、今後も周辺環境と調和した良好な居住環境を有する中高層住宅地として維持・保全するとともに、若い世代の居住を促進し、世代間バランスを確保することにより、地域コミュニティの維持・活性化を図ります。
- 南北方向の交通を円滑に処理する上で重要な役割を担う（都）大根若王子線を重点整備路線として位置づけ、整備を推進します。
- （都）大根若王子線と（都）平手豊明線の交差部分については、二村山緑地と隣接するため、都市計画道路の見直しを調査・検討します。
- 都市緑地（二村山緑地）の整備を段階的に進めます。
- 大狭間湿地については、文化財としての保護を進めます。
- 戦人塚をより市民にとって身近な史跡とするため、戦人塚の石碑周辺の保全を進めます。

図 本地域の将来都市構造図

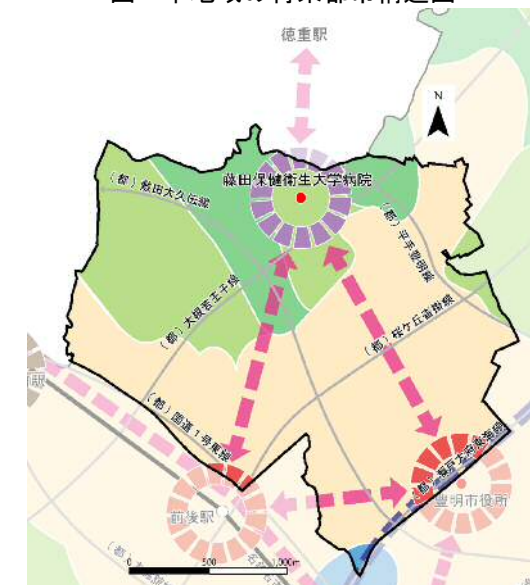
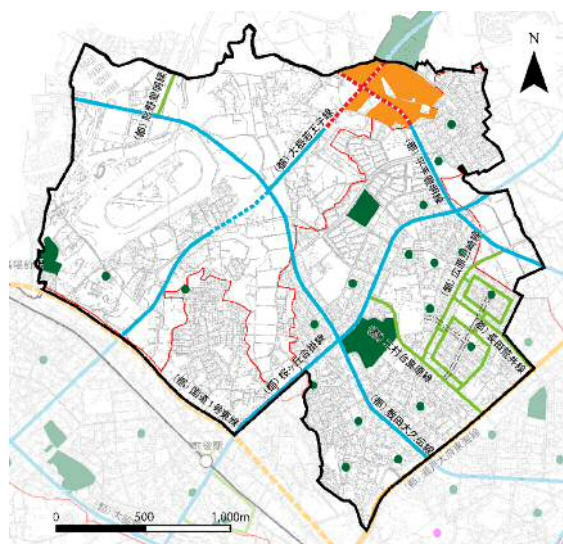
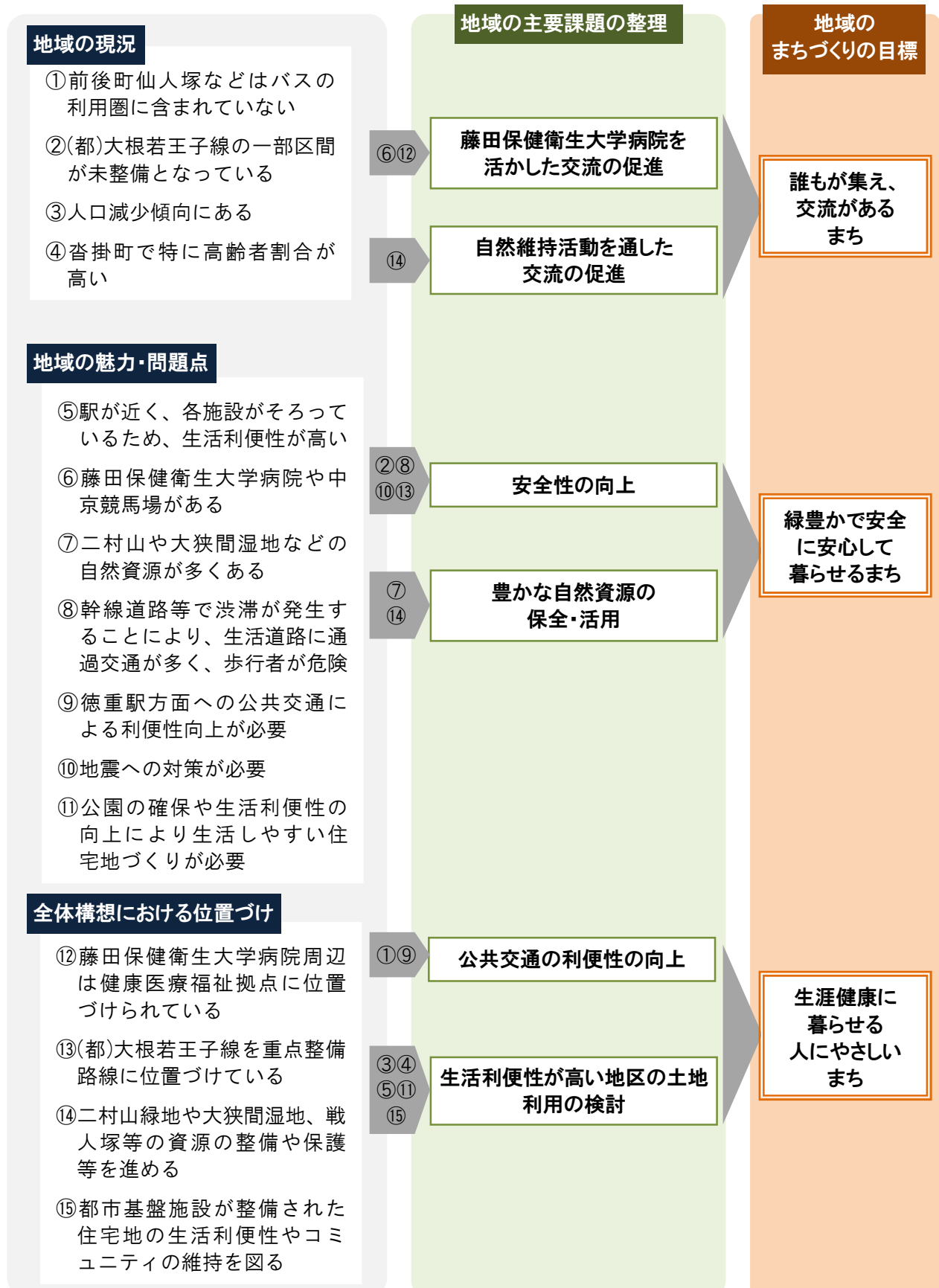


図 本地域の幹線道路、公園・緑地の整備方針図



4 地域の主要課題の整理



5 地域のまちづくりの目標と方針

本地域の魅力と問題点を踏まえ、本地域がめざすまちづくりの目標を以下のように定めるとともに、その実現に向けたまちづくりの方針を示します。

地域のまちづくりの目標

誰もが集え、交流があるまち

本地域では、藤田保健衛生大学病院等との連携により、誰もが集える場づくりやイベントなどを通して、住民同士や来訪者との交流があるまちをめざします。

住民と行政との協働による地域のまちづくりの方針

- ウォーキングイベント開催とあわせた清掃活動を進めるなど、交流しながら地域の美化に取り組むことを検討します。
- 藤田保健衛生大学病院との連携による多様な人が集える場づくりなど、幅広い交流を促進する機会づくりを検討します。

地域のまちづくりの目標

緑豊かで安全に安心して暮らせるまち

本地域では、二村山緑地の保全を進めるとともに、身近に自然を感じられる住宅地づくりを進め、緑豊かなまちをめざします。また、交通安全対策や防災対策を図ることにより、安全で安心して暮らせるまちをめざします。

行政が主体的に取り組む地域のまちづくりの方針

- (都)大根若王子線と(都)平手豊明線の交差部分については、二村山緑地と隣接するため、都市計画道路の見直しについて、調査・検討を行います。
- (都)大根若王子線や(県)阿野名古屋線、(都)敷田大久伝線、唐竹小学校西側の三叉路などでは、歩行者の安全で円滑な移動確保や渋滞解消のための道路整備や交通安全対策を進めます。

住民と行政との協働による地域のまちづくりの方針

- 一時避難場所としての公園の防災対策を検討します。

地域のまちづくりの目標

生涯健康に暮らせる人にやさしいまち

本地域では、公共交通の利便性の向上や幅広い年代で利用できる公園づくりや高齢者の買い物支援策の検討を行うことにより、誰もが生涯健康に暮らせる、人にやさしいまちをめざします。

行政が主体的に取り組む地域のまちづくりの方針

- 徳重駅や藤田保健衛生大学病院など利用の需要が高い拠点へのアクセス強化などにより、鉄道、路線バス、ひまわりバス及びタクシー等による利便性の高い公共交通ネットワークづくりを進めます。

住民と行政との協働による地域のまちづくりの方針

- 前後駅に近い間米地区において、地権者の合意形成や関連法令等への適合など、整備に向けた条件が整った場合には、生活利便性の高い住宅地の形成を図ります。また、身近に自然を感じられるまちづくりを進めるため、公園やサイクリングロードの整備などを検討します。
- 高齢者が増加している地区では健康遊具を設置すること、子どもが多い地区では遊び場を確保することなど、地区の実情に応じた施設の整備等を進めます。
- 商業施設が少なく地形に高低差がある地区等において、高齢者の買い物支援のしくみについて検討を行います。
- 定期的なイベントとの連携や利用啓発活動等により、公共交通の利用促進を図ります。

